

政策調整会議の概要

開催日 令和8年1月29日(木)

◎項目

- 1) 県公式 X 投稿にかかる運用体制の変更について
- 2) 高知県観光特使について
- 3) 高校生キャリア教育の取組結果について

◎内容

1 県公式 X 投稿にかかる運用体制の変更について【総合企画部】

○総合企画部副部長

県の取り組みについてこれまでよりもタイムリーでスムーズに情報を伝えられるよう、現行の CMS を改修し、情報発信の強化を行うこととした。これに伴い、現在、広報広聴課において管理・運用している県公式 X アカウントの運用方法についても見直すこととした。

まず、県政記者に投げ込みを行う知事出席の行事は、原則すべて X で情報発信することで情報発信の頻度を増やしていく。

その他の県政に関する投稿については、これまでは各所属で記事を作成して広報広聴課が X で投稿作業を行っていたが、今後は、各所属で CMS 作成から投稿作業までできるようになる。

知事投稿の運用は2月16日の行事から適用する。

また、CMS 機能については、文字数や画像添付を必須にする等の改修をすることとしており、2月6日の午後6時30分以降に運用開始となる。

2 高知県観光特使について【観光振興スポーツ部】

高知県観光特使は、高知県にゆかりのある方々に高知県の観光情報などを発信していただくことで、高知県の認知度とイメージの向上、また観光客の増加につなげるもの。観光政策課のおもてなし室において、これまでに累計で503名の方に観光特使を委嘱をしている。

観光特使の主な活動として一番多いのは観光特使としての名刺交換で、他にも、講演会やイベント、プライベートの会合等で高知県のPRをしていただいたり、知人や関係団体を連れての来高といったものもある。

観光特使の名刺は、裏面が県内23の観光施設の無料入場券となっており、この名刺が誘客につながっている。昨年度は、7,000枚以上が誘客につながった。

今年度は3名の方を委嘱済みで、ほかにも6名を委嘱予定。

観光特使の活用事例としては、例えば、MUROTOみらいキッズフェスタ2025という室戸市主催のイベントでは、朝ドラあんぱんの先生役で出演していた樫尾篤紀さんがトークショーゲストとして参加。また、高知龍馬マラソンには、毎年ゲストランナーとして観光特使にご参加をいただいている。

観光特使と実際にお話をさせていただくと、どの方も高知県に想いを持たれており、高知県のために何かできることはやりたいので、もっと活用してもらいたいという話をよくお聞きする。

観光特使の名簿をホームページに載せているので、各部局で観光特使に依頼したいことやアイデアがあれば、おもてなし室へ相談いただきたい。

また、観光特使には主に高知県の観光に関する情報をお知らせしているが、特使からは、他にも食など色々な情報を教えていただければPRできると言っていた。特使を通じて情報発信ができるので、各部局でも何かアイデアがあれば相談いただきたい。

3 高校生キャリア教育の取組結果について【教育委員会】

昨年11月、高知ちばさんセンターで開催された「ものメッセ2025」に参加した高校生のアンケート結果をまとめた。

今年度は、追手前高校の普通科などにも参加いただけるように取り組みを強化。参加高校生は2,900人を超え、アンケート回答者は県立高校の1～4年生2,282人。

参加者の感想では、「想像以上に、県内企業の技術力や世界的に活躍してる企業あることに驚いた」という声や、「高知の企業の魅力が十分に知られておらず、情報発信がもう少し必要じゃないか」という意見も少なからずあった。

就職希望者の状況について見てみると、高校卒業後は就職希望が29%。この内、就職先地域については、県内就職希望者は47%、県外就職は27%であった。県内就職を希望する理由としては、「住み慣れた場所での経済的・心理的負担の少なさを最優先」、あるいは、「友達や家族と離れたくない」といった声が多い。また県外就職を希望する理由としては、「最低賃金が高い」、「大手企業の存在」といったもののほか、よりスキルアップしたいという意欲を訴える生徒が多い。

さらに、仕事を選ぶ際に重視することについては、「自分の適性」といった答えが多かったが、「会社の知名度」は仕事を選択する上で、必ずしも重視されていないような傾向が見られた。

将来的に高知県で就職（高知県へ帰る）したいかという質問については、「25歳までに高知県で就職を考えている」が52%。一方、「高知で就職（帰る）を考えていない」は38%であり、ここへのアプローチをどうしていくかということが課題になってくるかと思われる。

高知県に若い人が定住（移住）するには何があれば良いかという質問では、最低賃金の引き上げといった「金銭的な余裕」や、子育て支援の制度や子供が遊べる施設といった「家族で住みやすい環境づくり」があった。

次に、昨年8月5日から7日に開催して、県下34校、74名が参加した「新しい学校のリーダー研修」について。

8月5日は、県庁の関係各課に協力をいただき、高知県の課題等について紹介や説明をしていただいた。8月6日は、県下6企業等を見学。8月7日は、成果発表やパネルディスカッションを実施した。

来年度はもう少し人数を増やして開催したいと考えており、ぜひ、県庁の各課、関係

機関から、高校生へ県政の現状課題を伝えていただきたいと思います。また、企業等の見学先のセレクトについて関係部局から助言をいただければと思う。

研修全体を通しての感想として、「高知県には若者に伝えられていない魅力が満載であり、これを我々が伝えていかなければならない」といった、非常に頼もしい発表が知事の前でもあった。

高知の企業や魅力が高校生に伝わっていないという点については、こちらとしても何らかの工夫が要るのではないかと感じているところ。

副知事

予算業務も大詰めであり、来年度に向けた本部会を開催する等、本年度の詰めの作業に入っていると思う。

この機会に、業務の抜かりがないか、もう1度再確認をしていただきたい。